

演習林をめぐるこの一年の動き

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 分野長・教授 澤口 勇雄

(1) 林野庁補助事業「低コスト作業システム構築事業」に採択

岩手大学演習林は、御明神演習林と滝沢演習林の2演習林で構成され、総管理面積は1,321haに及び、2名の専任教員と9名の技術系職員が、日々、演習林に関連する教育・研究・エクステンションに取り組んでいる。森林管理に関しては、10年間で1期とする森林管理計画を策定し、その確実な森林管理に努めている。両演習林あわせて400ha近いスギを主体とする人工林の多くは、Ⅹ齢級以下の要間伐林分で、間伐の推進が森林管理上の大きな課題となっている。

このような中であって、御明神演習林は山岳林型の持続的森林経営のモデル林を標榜して、森林管理を進めてきたが、この取り組みの成果が平成19年度林野庁補助事業の「低コスト作業システム構築事業」のモデル林として選定されることに繋がった。この補助事業は路網と高性能林業機械化により、新たな低コスト林業経営を構築しようとするもので、東北地方で唯一の開発実証林として選定されたものである。演習林

の技術系職員が日常研鑽を重ねてきた、路網とハーベスタやフォワーダなどの最新の伐出システムによる森林作業技術の開発への取り組みが、地域の森林経営のモデルとして評価されたともいえる。岩手大学演習林で開発を進めている、超高密度路網を基盤とする新たな森林作業技術について、広く地域社会に普及するために、11月28日(水)に青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県などから、120名を超える民有林と国有林の林業技術者、森林組合、機械開発メーカーなどの専門家が御明神演習林に参集して現地検討会が行われた。なお、現地検討会の様子は、同日地元TV局を通じて報道された。



現地検討会

(2) 文化庁の「ふるさと文化財の森」に指定

滝沢演習林の160年を超えるアカマツ美林は御堂松系の“南部アカマツ”を代表する林分として著名である。古来より、南部アカマツの産地として名声を博してきた岩手県においても国有林、民有林のアカマツ優良林分の伐採が進み、松枯れ被害が拡大する中で、滝沢演習林のアカマツは我が国を代表するといっても過言でない貴重な存在となっている。マツノサイセンチュウによる松枯れ被害は、盛岡市近郊までせまり、滝沢演習林のアカマツも松枯れの脅威にさらされており、演習林では高齢大径木アカマツ林の保全管理に努めている。このような中に



文化庁による設定案内板

あって、滝沢演習林の約8haのアカマツ林が文化庁によって、平成19年3月に「ふるさと文化財の森」として設定された。このふるさと文化財の森は、我が国の歴史と文化を伝える文化財建造物の保護についての国民の理解を増進し、修理のための資材の安定確保を図るために設定されているもので、岩手大学の「アカマツの森」は設定番号2号である。ちなみに設定番号1号はやはり岩手県二戸市(旧浄法寺町)のウルシ林である。全国に先駆けて森林王国岩手県の美林が文化庁から栄えある設定を受けたことになる。岩手大学演習林では、本設定を機会に貴重なアカマツ林分の森林管理の徹底を図り、我が国の歴史と文化の継承にも貢献できるように努めることとしている。

教育
トピックス

坂本甚五郎氏 平成19年度大学農場技術賞受賞

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 佐川 了 ●



坂本甚五郎氏

坂本甚五郎氏が全国大学農場協議会から平成19年度大学農場技術賞に選考され、昨年10月に開催された秋季全国農場協議会において表彰された。受賞業績は「寒冷地における水稲の高位安定栽培技術の実証・展開に関する教育研究および地域への貢献」である。

坂本氏は昭和42年に農学部附属農場(現FSC第2分野)に採用以来、主として水稲栽培部門の担当として積極的に実習指導と教員の研究補助に当たり、平成10年からは技術職員のリーダーとして教育・研究はもとより農場運営、地域貢献活動の先導的役割を果たしてきた。今

回の受賞対象となった業績は教育・研究活動においては坂本氏の多くの業績のなかで主として、平成5年の水稲冷害に対する栽培技術的被害軽減対策の実証と開示および寒冷地における再生紙マルチ栽培水稲の実証・展示に関するものである。また、地域貢献活動では平成3年に開始された「親子農場体験教室」から、現在の「フィールド科学体験教室」に至る一連の体験教室の開催、「滝沢農場一般公開」の開催に関して、その立案、実施の中心的役割を担ってきたことが高く評価された。それらはマスコミ等を通して農学部学生はもとより、農業者、一般市民に広く認知されることとなっている。

坂本氏の技術賞の受賞はFSCにとりまして、非常に喜ばしいことであり、心よりお祝いしたい。

ウガンダでの活動報告

青年海外協力隊 平成19年度1次隊 小松 孝治 ●

私は、岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場で卒業研究を行い、平成19年3月に岩手大学を卒業しました。現在は、ウガンダという国の片田舎で暮らし、青年海外協力隊として活動を行っています。6月には日本を発ったので、半年以上こちらで過ごしています。あつという間です。ウガンダと言っても、ピンと来ない方が多いことと思います。ウガンダはケニアやタンザニアと隣り合った東アフリカの一国で、本州と同じくらいの国土があります。ナイル川の源流であるビクトリア湖が大きく広がっており、赤道直下にもかかわらず高地なので、緑豊かな穏やかな気候の国です。

私の配属先は国立の灌漑地区の事務所です。当地では第二次世界大戦中にイギリスが農民たちへ稲作を伝えたといわれています。灌漑地区は1,000haにも及び、登録農民は4,000人以上とも言われています。現在行っていることと言えば、灌漑施設内の1エーカーの展示圃場の管理をし、品種試験や種子の増産などを行っています。これ以外にも日本のNPOの協力を受けて、農道の整備も行いました。

灌漑施設の大半は老朽化して壊れ、水路は砂で埋まり、栽培はきわめて粗放的で、新しい技術を取り入れようとしない、そして、高い言葉の壁。問題は山積みで、いつも悩みが付きまといま



地元農民との農道整備

また、料理や洗濯などの家事仕事を日本と異なった不便な環境のもとで、こなしていく苦勞もあります。「ウガンダ人は家族ぐるみでやっていてずるい」なんて言いながら、井戸からの水汲みを警備員の人にお金を払って頼んでいます。生活の不便さ、そんな暮らしを体験すると、数々のインスタント食品や洗濯機など文明の凄さを身に沁みて感じます。なにより、停電が何日も続き、ふいにつく電気のありがたさといったらありません。心の中まで照らされるようです。

自分の立ち位置さえもまだ暗中模索ですが、このような大きな機会、目的意識をしかと持ち、マメに活動していくことが肝要なことと思います。ウガンダにお越しの際はご連絡ください。

エクステンション トピックス

第6回「フィールド科学体験教室」開催

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 千田 広幸・中西 啓

5月20日(日)から10月14日(日)まで、寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場において公開講座「フィールド科学体験教室」が開催され、30名(14家族)の児童生徒および保護者が参加しました。第6回目の開催となる本年は、「ジャンボかぼちゃを作ろう!ジャンボかぼちゃコンテスト」をメインテーマに、各月1回の日程で実施し、ジャンボかぼちゃの栽培の他に田植えやブルーベリーの収穫、リンゴの収穫、農業機械の試乗等の農作業を体験し、最終日には職員も参加してミニ収穫祭を行いました。

ジャンボかぼちゃの栽培では、1家族を1チームとして2品種(2株)のかぼちゃを定植し、生育の様子を観察しながら、除

草、追肥、ワラ敷きなどの作業を6ヶ月間行いました。最終日には、職員も手伝いながら巨大な果実を収穫し、重量を計測しました。コンテスト表彰式では、上位3チームに賞状が授与され、第1位の記録は81kgでした。続いて閉校式が行われ、全日程を無事に終了しました。

本年の公開講座では、6回の日程で多くの体験内容を企画したこともあり、最終日のアンケート調査では、受講者から「いろんな経験ができて楽しい教室でした」や「他の学校の友達できて嬉しかった」等の感想があり、好評を得ました。今後も滝沢農場では、農場を舞台とした取り組みを継続し、地域の方々に提供していきたいと考えております。



かぼちゃが大きくなりました



収穫したジャンボかぼちゃ



‘紅玉’の収穫

第4回 滝沢農場一般公開

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 村上 政伸・武田 伸也

今年ではや4回目を数える滝沢農場の一般公開が、11月11日に開催されました。今年の内容は、農業・園芸相談、学生・教職員による研究成果のパネル展示のほか、馬術部指導による乗馬、仔牛との触れ合い、農業機械の試乗などの体験コーナーの開設と農場生産物の販売でした。販売した生産物は、新米と小豆などの豆類、白菜や大根などの野菜、シクラメンとパンジー、ジャージー牛の肉と牛乳や‘はるか’、‘ふじ’をはじめとするリンゴで、毎年行われているリンゴ収穫体験は今年も人気が高く、皆袋いっぱい詰めていました。この他にも屋台コーナーとして、焼きトウモロコシ、豆腐田楽、焼肉、自分で作って楽しめるポップコーンや食堂コーナーで販売した芋の子汁、今回初めて行った餅つきの無料振る舞いな

ど、農場の生産物をふんだんに味わっていただくことができました。

あいにくの天候にもかかわらず、約1,000人もの方々の来場があり、帰り際、提出していただいたアンケートには「楽しかった」、「農場の生産物は安くて美味しい」、「学生の対応が良かった」など、主催者側としては大変うれしい評価を頂き、今年度も無事終了することができました。協力していただいた先生方、学生ボランティアの方々に厚くお礼申し上げます。



多くの来場者で賑わう

学生の声

植物生産学講座2年 寺田 彩笑

農場公開の当日は朝から雨が降っていたので、お客さんが来るか少し心配でしたが、芋の子汁の準備が出来た11時頃には、食堂に長い列ができていました。農場で採れた野菜や手作りの味噌でできた芋の子汁はとて好評で、多くのお客さんが「おいしかったよ。」と言ってくれました。お客さんの反応を直接感じることができ、また、いろいろな人と触れ合うことができて、とても嬉しかったです。

農学生命課程1年 杉山 明弘

悪天候にもかかわらず、私たちの担当したリンゴの収穫体験には多くの方が来てくださいました。ご来園して下さった皆さんの、食品に対する関心や知識の量に、一年坊主の私はタジタジでした。学生として、「もっと学問を身につけねば!」と思いました。わずかな時間ではありましたが、農の恵みを満喫できる素晴らしい時間でした。来年度も楽しみです。

地域への貢献の展開(平成19年度)

職業的専門家対象

森林環境教育パワーアップスクールー森林生物多様性コアプログラムー(4)	H19年	5月21日(月)~5月25日(金)
低コスト作業システム構築現地検討会(1)	H19年	7月23日(月)~7月24日(火)
低コスト作業システム構築現地検討会(2)	H19年	11月28日(水)

一般市民・児童生徒対象

イーハトーブ森と家づくりフォーラム(住宅編)	H19年	4月22日(日)
第66回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習18」	H19年	5月14日(月)
第6回フィールド科学体験教室「ジャンボかぼちゃを作ろう!(1)」	H19年	5月20日(日)
第67回フィールドセミナー「親子で楽しむシリーズ(2)」	H19年	5月20日(日)
第68回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習19」	H19年	5月25日(金)
第69回フィールドセミナー「植物観察シリーズ(1)」	H19年	6月3日(日)
森林環境フォーラムinいわて「スギは悪者なのか!？」	H19年	6月16日(土)
第6回フィールド科学体験教室「ジャンボかぼちゃを作ろう!(2)」	H19年	6月17日(日)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(製材市場編)	H19年	6月17日(日)
第70回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習20」	H19年	7月3日(火)
盛岡市の森と住まいを考える会(製材所と住宅見学)	H19年	7月8日(日)
第6回フィールド科学体験教室「ジャンボかぼちゃを作ろう!(3)」	H19年	7月22日(日)
第6回フィールド科学体験教室「ジャンボかぼちゃを作ろう!(4)」	H19年	8月19日(日)
シンポジウム「自然公園と地域社会」	H19年	8月28日(火)
第2回 哲学者 内山節氏を迎えての「哲学の森」	H19年	9月1日(土)~2日(日)
第6回フィールド科学体験教室「ジャンボかぼちゃを作ろう!(5)」	H19年	9月9日(日)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(森林編)	H19年	9月30日(日)
第71回フィールドセミナー「植物観察シリーズ(2)」	H19年	10月7日(日)
第6回フィールド科学体験教室「ジャンボかぼちゃを作ろう!(6)」	H19年	10月14日(日)
公開セミナー 林野をめぐる近代化の歴史と新しいコモンの胎動ー東北地方からの展望ー	H19年	10月20日(土)
第72回フィールドセミナー「親子で楽しむシリーズ(3)」	H19年	10月28日(日)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(住宅編)	H19年	12月22日(土)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(住宅編2)	H20年	2月10日(日)
第73回フィールドセミナー「かんじきをはいて冬の森を歩こう」	H20年	3月2日(日)
第74回フィールドセミナー「親子で楽しむシリーズ(4)」	H20年	3月30日(日)

センター開放的事業

滝沢農場一般公開	H19年	11月11日(日)
----------	------	-----------

岩手大学農学部における卒業論文・修士論文テーマ公募に関するお知らせ

岩手大学農学部では岩手大学中期計画に基づき、地域社会のニーズの吸い上げと研究結果の地域社会との共有化を目的とし、卒業論文・修士論文のテーマを公募することとなりました。農学部における卒業論文・修士論文の研究のテーマとして取り上げてもらいたい事項の御希望がございましたら、下記までメールまたはFAXにて御連絡ください。折り返し、御連絡し詳細について御相談させていただきます。御応募をお待ちしております。

注) 卒業論文・修士論文のテーマは、学生・院生自身の希望も重視して設定されます。御応募いただいたテーマが、そのままの形で、すぐに研究に移されるかどうかについては確定できない部分もございますことをあらかじめ御了承ください。

【応募先】〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-8 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター事務局
FAX: 019-621-6664 E-mail: fsciu@iwate-u.ac.jp

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019(621)6234

E-mail: fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/

発行責任者/寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 岡田 秀二
編集責任者/寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本 信次